へ13
3836
17

倭文庫三拾九編
上

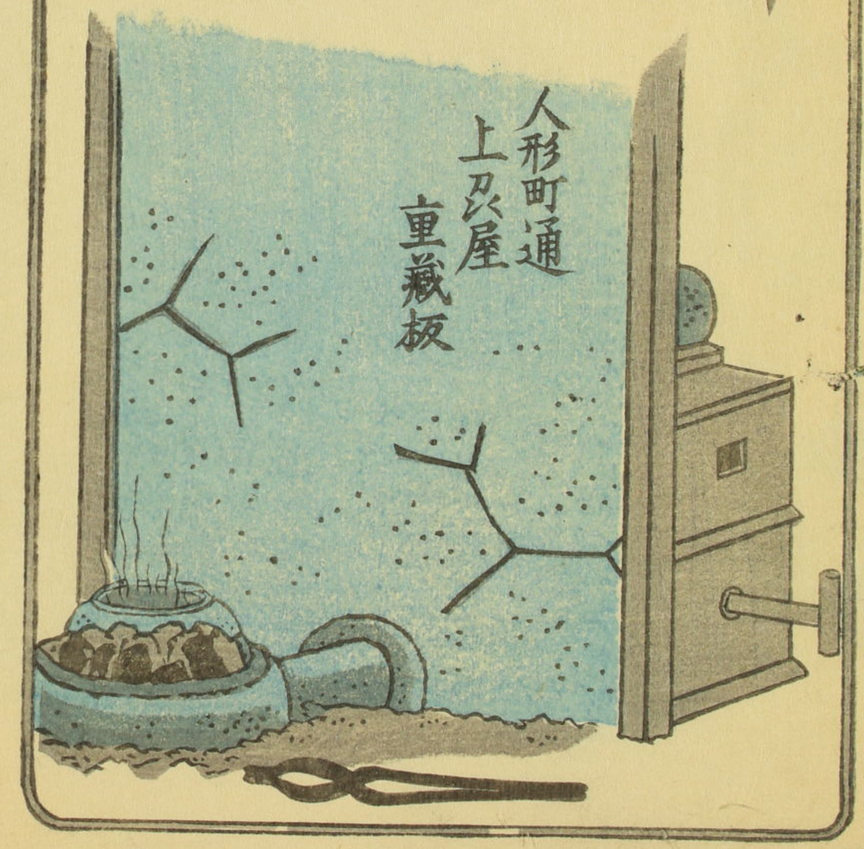
門へ13
號3836
卷17

倭文庫二拾九編上卷

戊午春新彫

万亭應賀作

歌川國貞画



倭文庫
一

釋迦八相倭文庫三拾九編序

夫言葉多くハ品少くと古語ハ戒められど童蒙や少女連ハ聊か善道を悟さんにそも一事と再々回説て悄くその半事も通とゝ為ん〻やられば〻覚安くと一事と再三再四説ハ種双史の北丁ゑれば蟲ハ困ゝつ然とて亦愚筆ハ詞寡ハ編ゑれば根末不解本ゞ著夫ゝ亦不作意両道難も困りくの驛宿ゑねど案の長途杖と机ハつゞと恨ゝきゝハ寐釈迦仏昼目蓮ハ阿難と迦葉難陀羅睺羅ちも〻扉をぴゝ舎利弗法堂の閑ゝ口ゝ〻引〻〻一二宣ゝさゞの夢の幕ハ歌舞妓乙女に及猿夫婦ハ奈落の禁忌も弥叶き〻十万億土のゑれハ方便ゑれハ狂弁

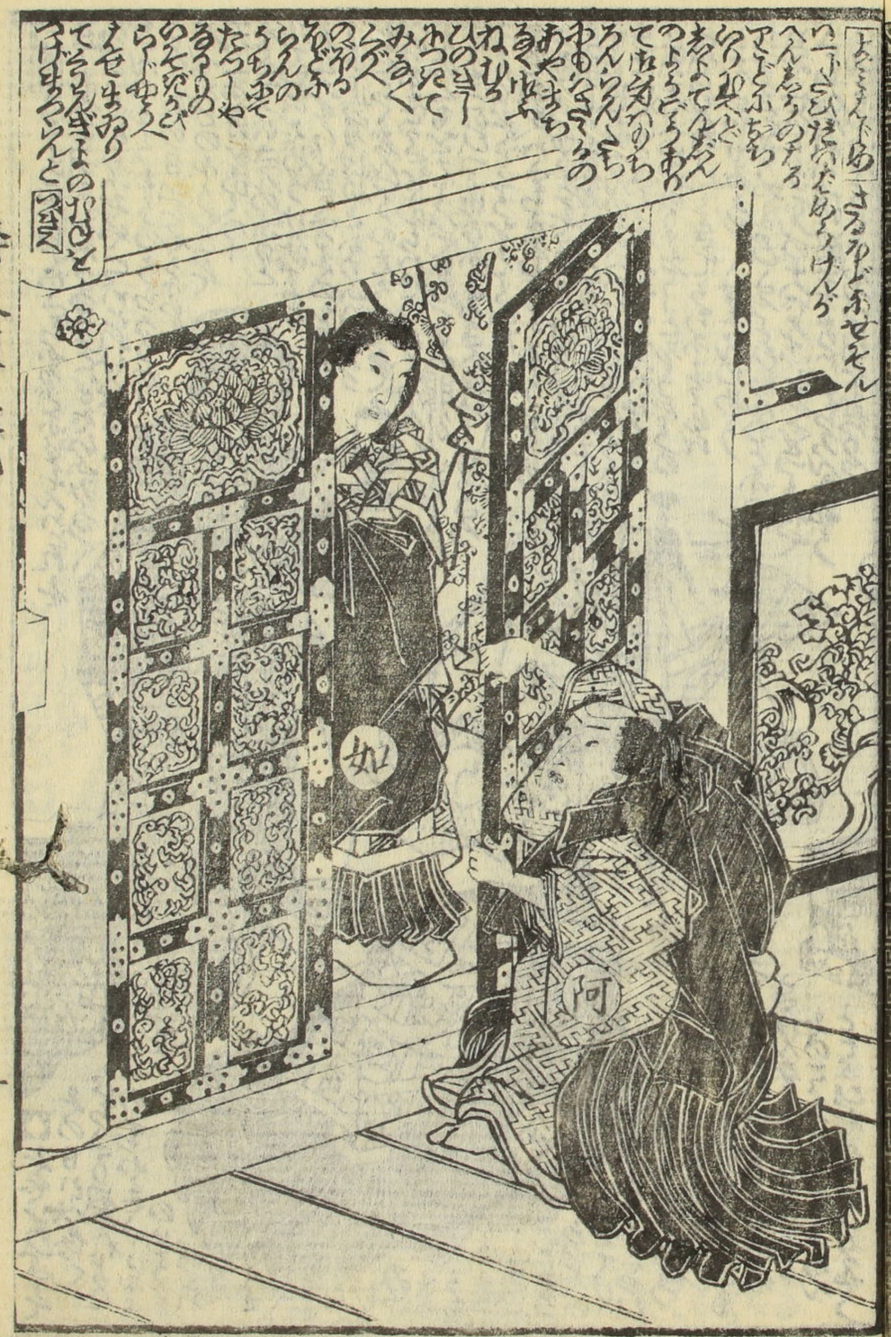
安政五年戊午孟陽

万亭應賀誌

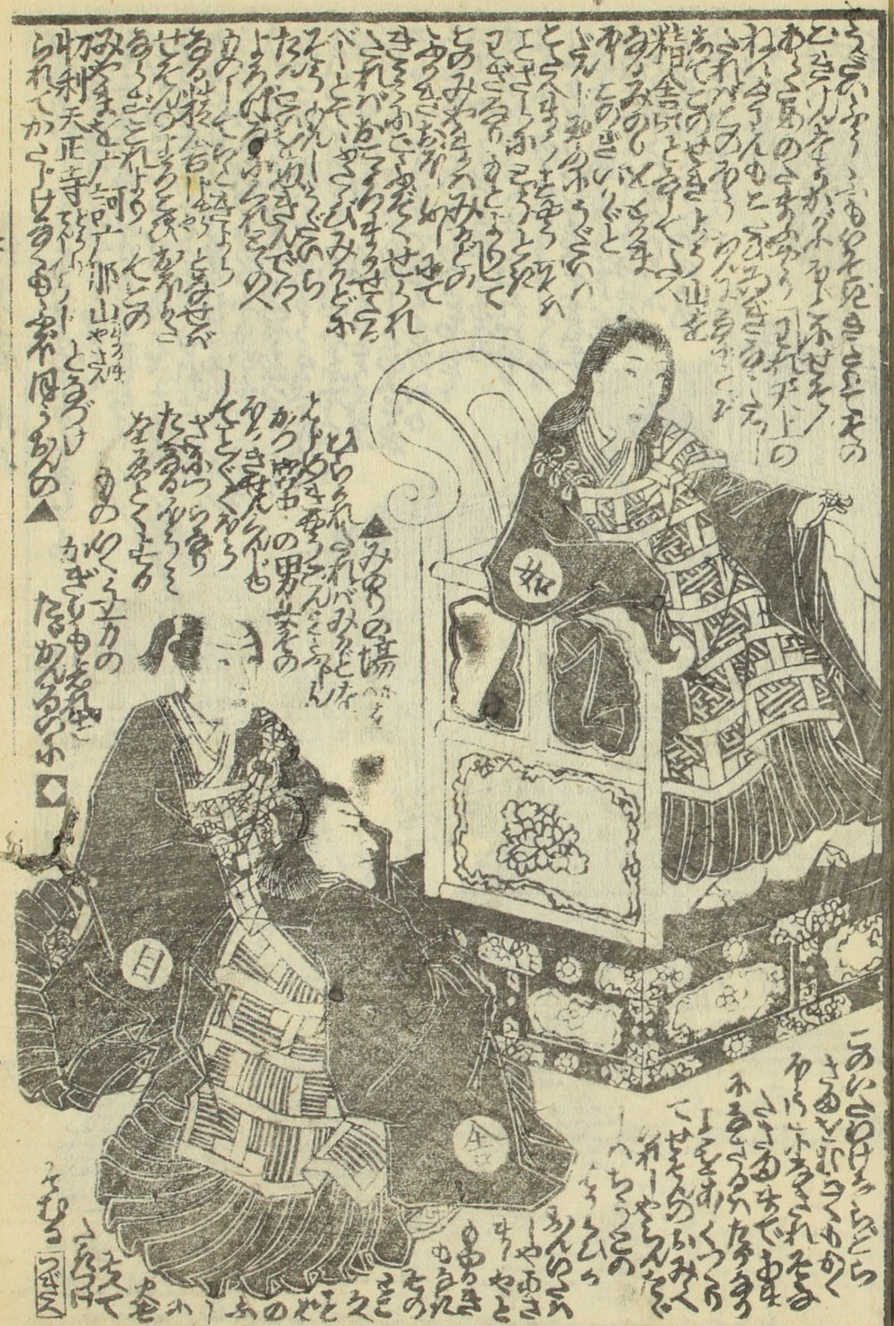
浄土を見せしめ給ふ
難陀太子
世尊神通方便を
難陀羅睺羅
波羅維斯那城
雪山及び天都
地獄
毛穴風火水地
義伯仙人
無間地獄の亡霊
羅睺羅

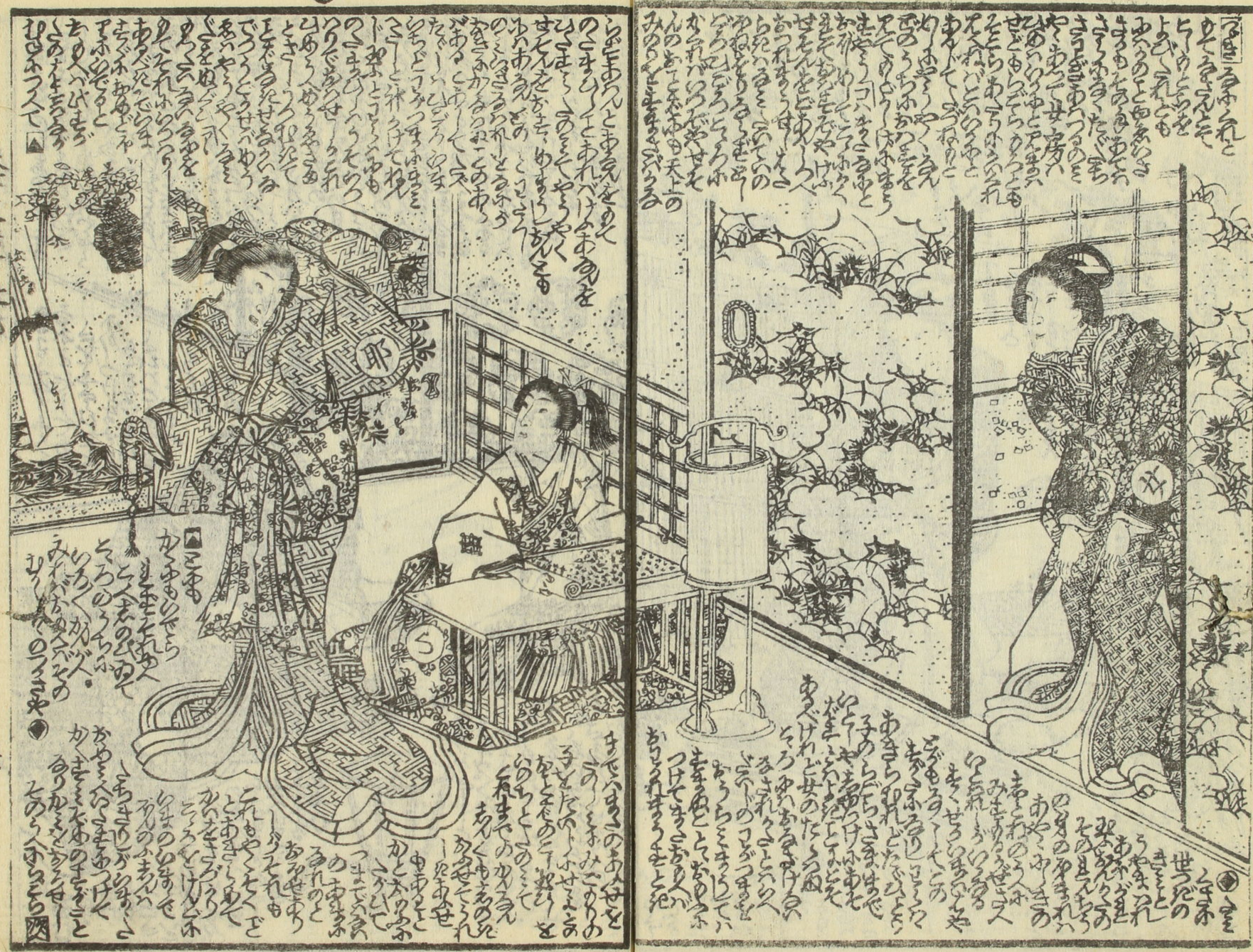
妙恵比丘尼

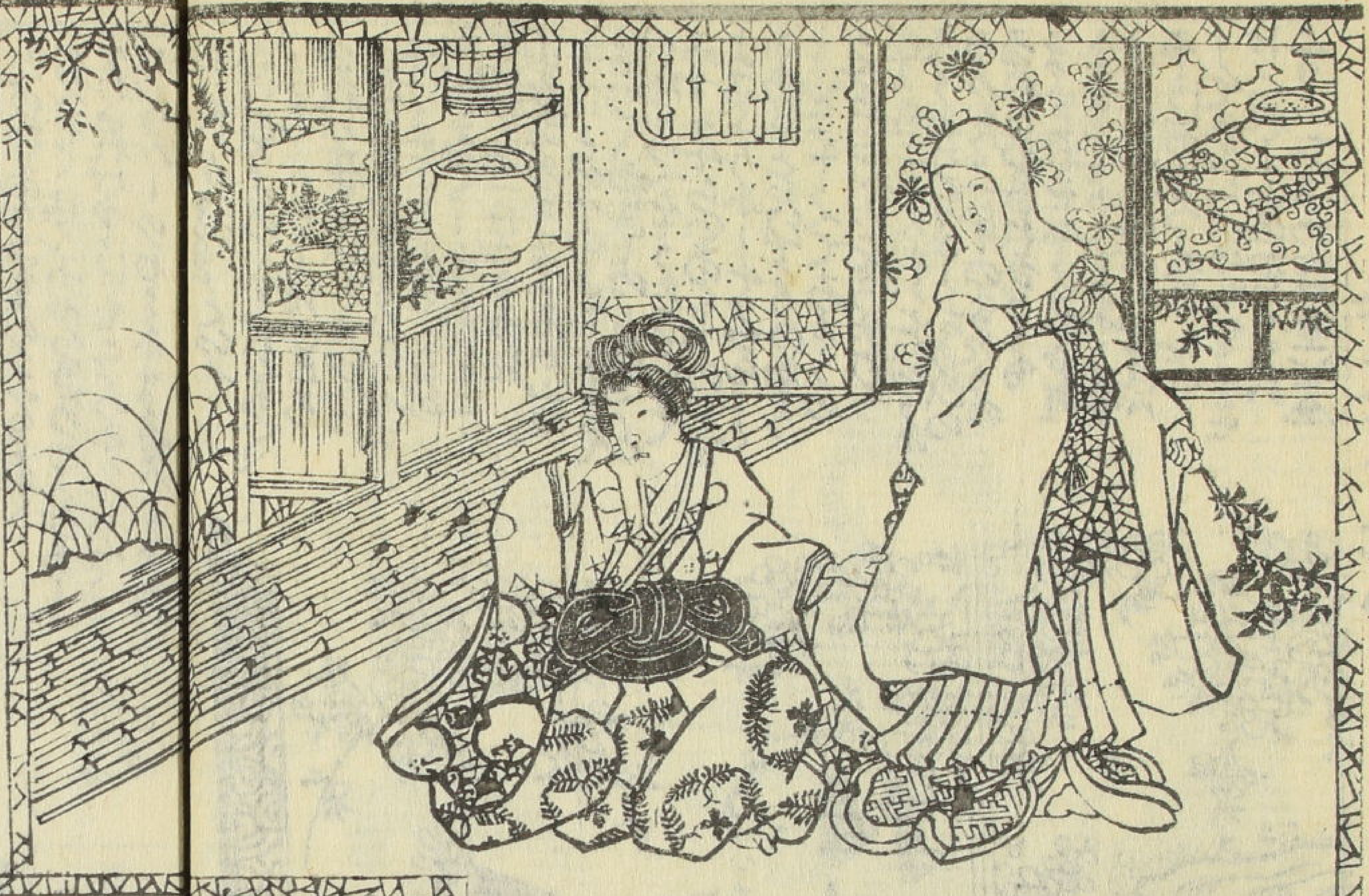
風前燈



女
ち
阿

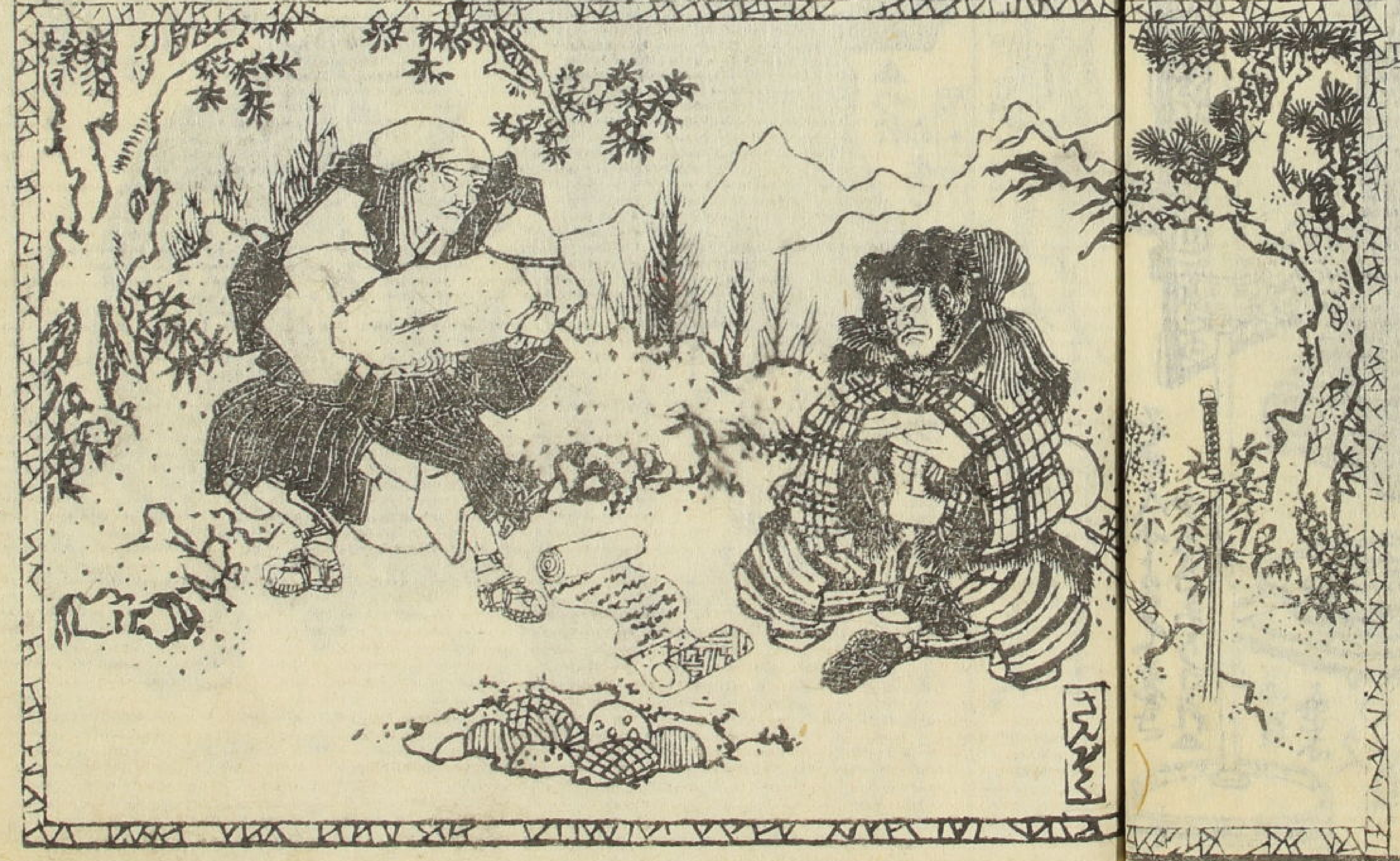

女
目
本





つゞき そのひとまへのふきさとらくゝのれ
ゆうくふおるや「されバこのひとまきこのおきまう
をみとくまるとうハ千万金のたからを
うるよりもまさるごれむりやうのさくこそあれ
されバそのさくとえまうゆんげんてうろのよふ
うまれてふかくゝすくひんくおみあや
だのらくらくよふてこれまことのらくふ
あらぎまづらくをわとむりうゆへ身とをう
しめてたくゝとうせきえぎものかておのゝの
たのしむらくそのこれとももろのひとまきご
みハまことあらくのゆげんのふなきをうをを
あくざるのそきうとまろこれけつこうの
たからすのくせんこれが金そうかつこれも
身をとんちハせまでえさもまくゝさいゆふく
ごゑうされハ身をこころさうとそのとこのひと
まうふかゝれがまさちらの身もおんぜんそうき
ふもつくときをせまひとのまるたからハこそ
まことのたからふでハなくろ身のあくと
いふのまりさそてそのまさこれをたとへて
いふどのひとまきをいゝふしてそみなさいま
うそむさるともおもまへいのちつまつのあハ

◆ひとどきまゝとりくかたゞこのまさとさよ
おすゝめのきゞこそ金をせゑの事一をまもの
みやげのこゝだかりのそれよりもまつそのおさかふ
ふのけぶ徳そまゝられていのちをそらこのまうう
まもるハ本ぞ金が身のありこうりまかれ
んやうれとらがみをあらて山ぞくゑきこうハ日
いのちをそろくりよそそのがいのちのたゝゆふ
ろし殿もうゑ卜よくふゝてらうれがつれハ身よろ
だのよくもてあんでかゝさたのきこゑまでもたく
へらくたからをのまそむて おゑやらそをさしハうゑて
よく心おきをいへんきとゑくらうよふとすっきこゝた
いさふからをらかんさかくふきてと色やゝ山風ましん
やいだんをもかくみてまうげてぞ一門けびけあからうの逆
まよふむとうりつれそのだゝいよのくふおもゐうらつまゝ
うづろのまでやえのよくふれざそれ五十ねんらいの
らくゆゝうのむぞのそらまたひとのかのちぞくの
せ一をもかぎぞあれずと宮をへおちつのらい
とそおもんぞうふすまでまたらそれがどぶんどうしも
まゝごおかくことゝしかまゝぞでふ六十一のさうゆうあう
えやくでさうぞうとなつ見さーでも八十うろ九十うろ
百のさすのゝもまゝすふゆるけとあるそふたちを
あるなしまりますうあろう身のゆあうもむとて
いふようゆらつくてたゞ山ぞくのまのゑろうつさふ
おき気のたかうまゝゞき一ぶゝ年のまきごとかつぶこう
つゞく



安政五戊午年春新板目録

倭文庫 三十八編 三十九編 万亭應賀作
四十編 四十一編 一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋 七編 為永春水作
八編 同 画

昔語小栗實説 二編 松亭金水作
三編 同 画

花山吹百人女郎 初編 柳亭種彦作
二編 同 画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

常磐津懐中本 初編 二編
三編 四編

〈重 繪艸紙本類 人形町 上州屋重藏

歌川國貞畫

午春新版

万亭應賀作

北斗堂國丸

錦里堂梓

下

俳文庫 六十九編

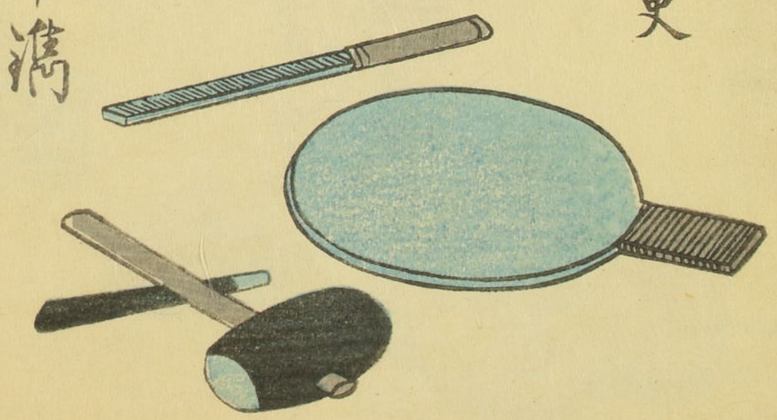
午亥 彩史

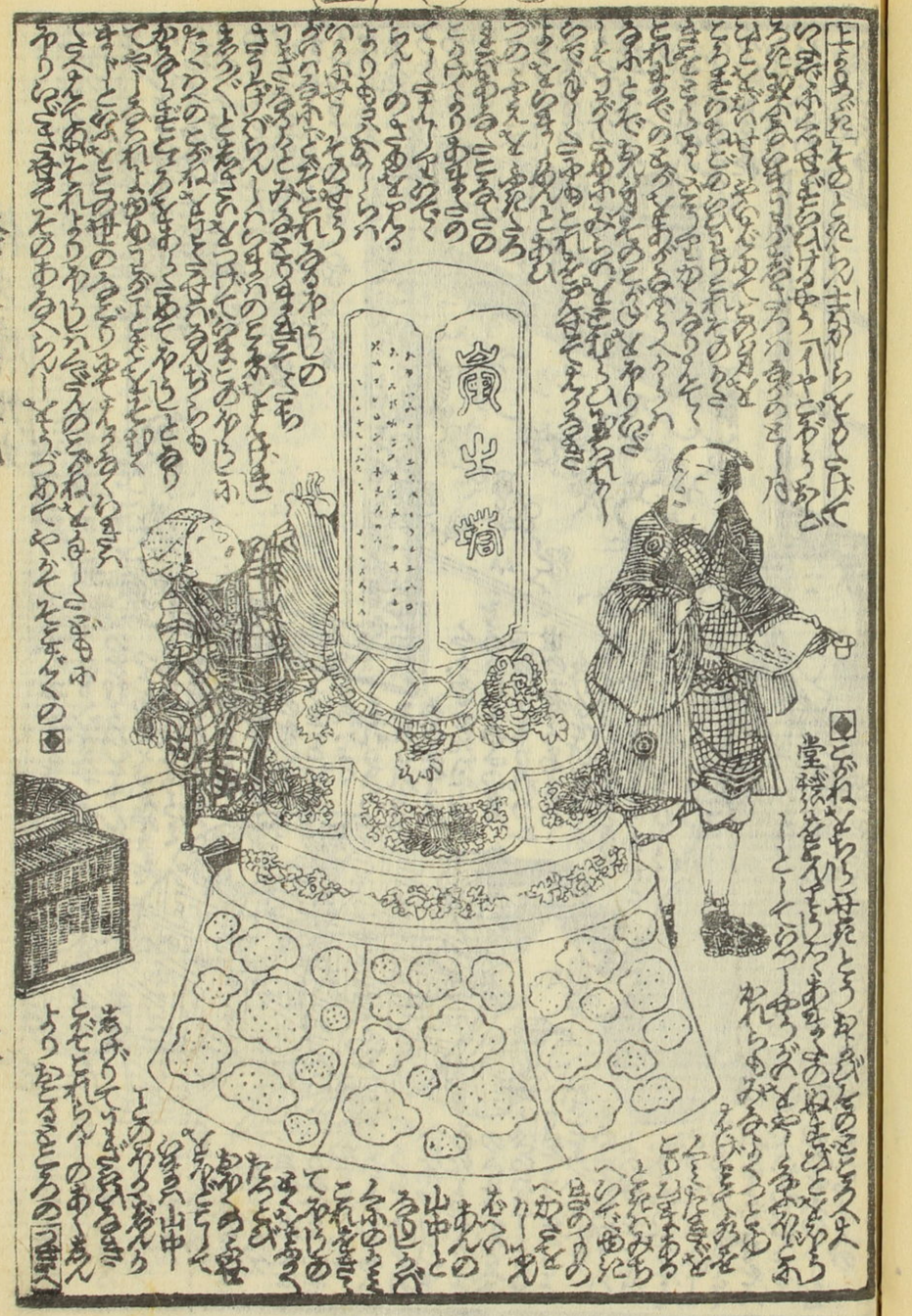
下岩

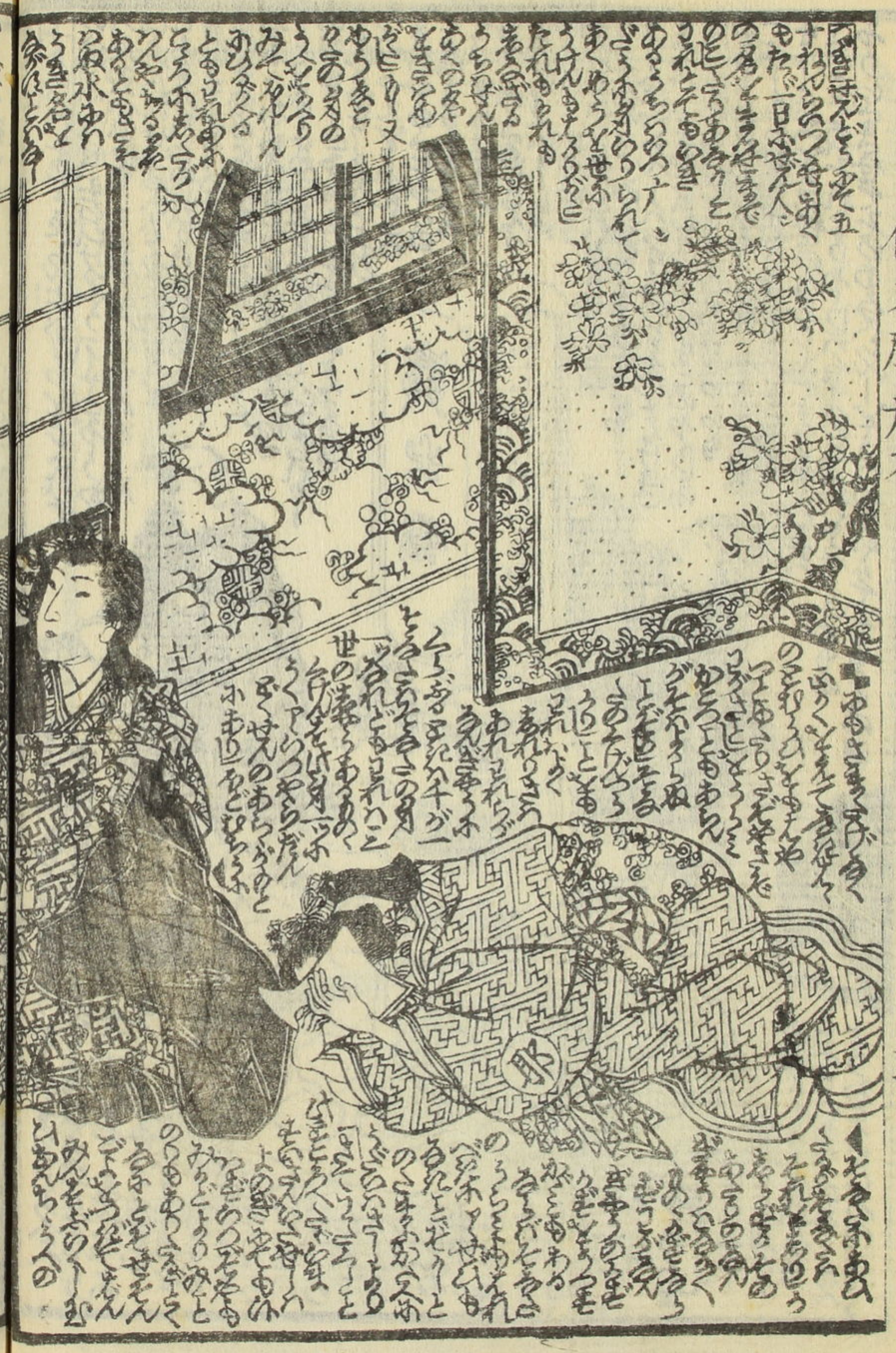
應賀作

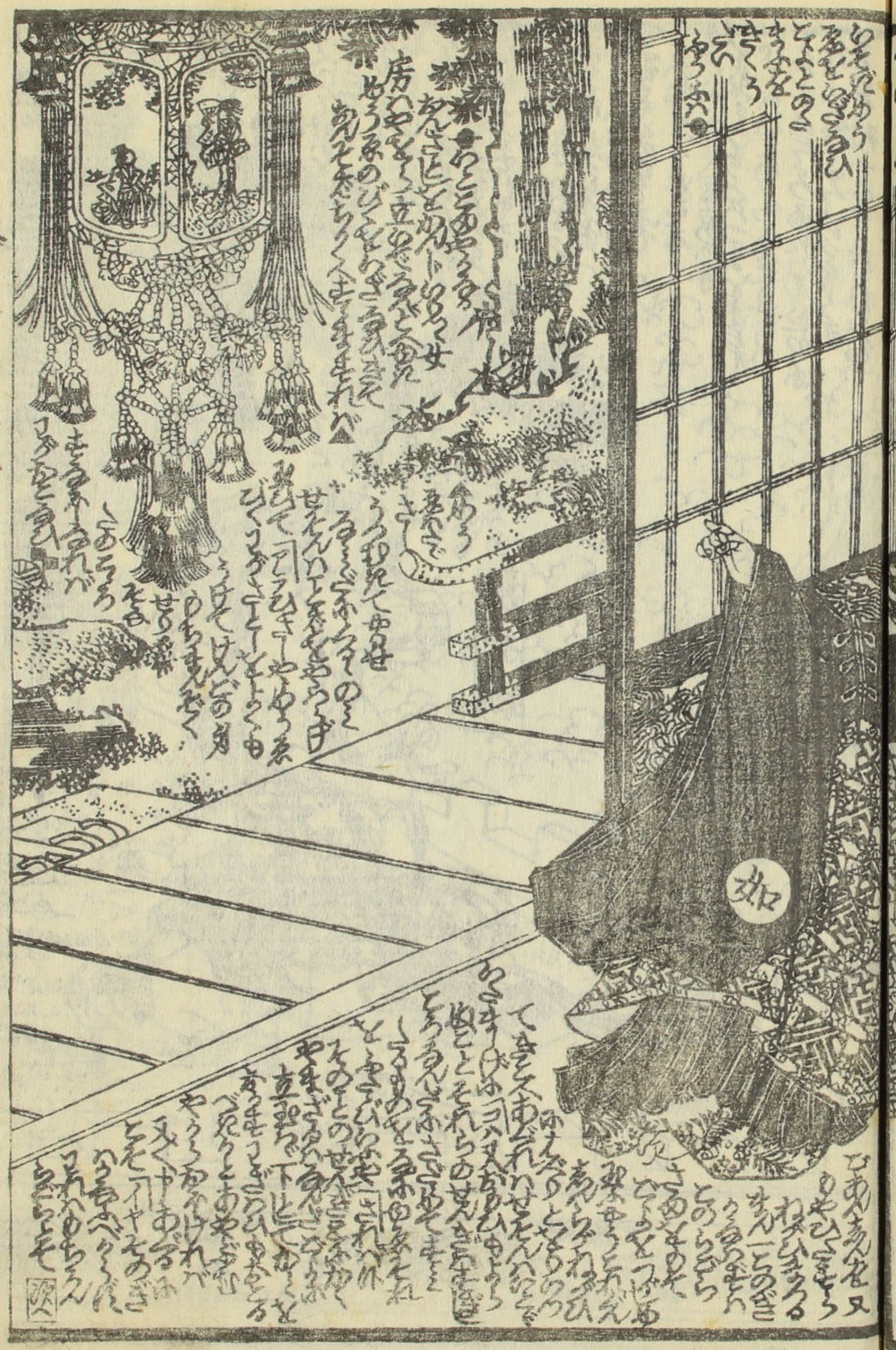
國貞画

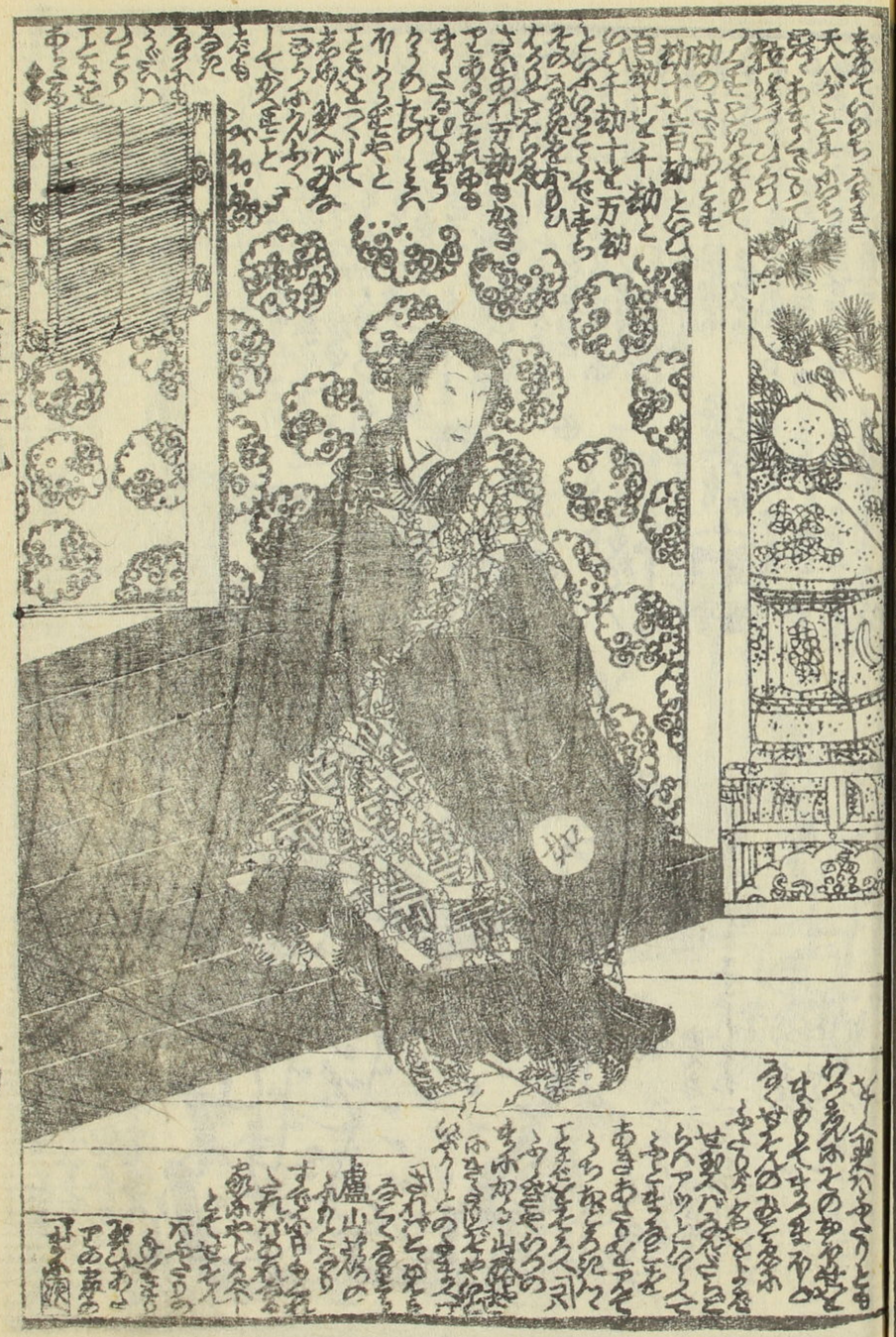
上井屋 開滿

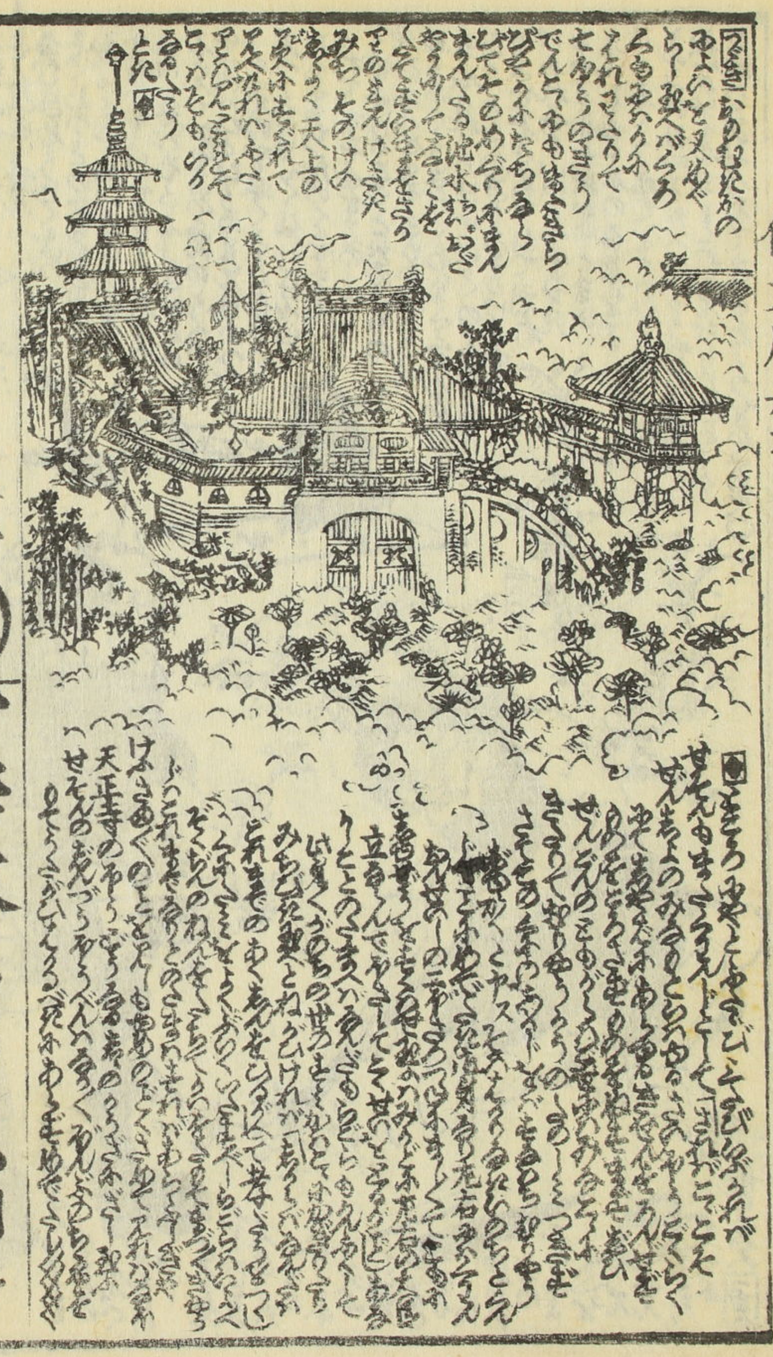












万亭應賀作 壽齋國貞画

安政五年戊午春新板目録

佳文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　当年の恵んえん西　同　一陽齋豊國画

武家奉公出世双六　同　同

奥奉公出世双六　同　同

子宝延命袋　全一冊　万亭應賀作　歌川芳玉画

重榮御江戸繪図　奉書四枚半續

淺草土産　初編五編と十返舎一九作　当年の歳暮　一陽齋豊國画

倭文庫四拾編
安政六
巳未春
新刊
上

倭文庫

安政六
巳未春
新梓

四拾編

巻之上

万亭應賀作

歌川國貞画

人形町通
上州屋重藏板

釋迦八相倭文庫四拾編叙

夫經巻ハ有人物ハ其生と死と詳ふせば唯時宜の一條究而已と説めれども信者の同行敢て夫と尋ぬ邂逅戯双史を見て善悪の應報人物の始有て終るものの有ハ少女も穴と穿く作者と諺噂甚しきれば二編ハ發覚る阿私陀仙を此編ハて終せ兼て抱仆者の鹿野女の局或ハ丹車の身の終をも筆に含ん所謂彼先へも一里後へも一里のこれぐ間の宿ハ休て本意究噂ハ那風と引ハクサメくの氣障を除く爲あるふと敬

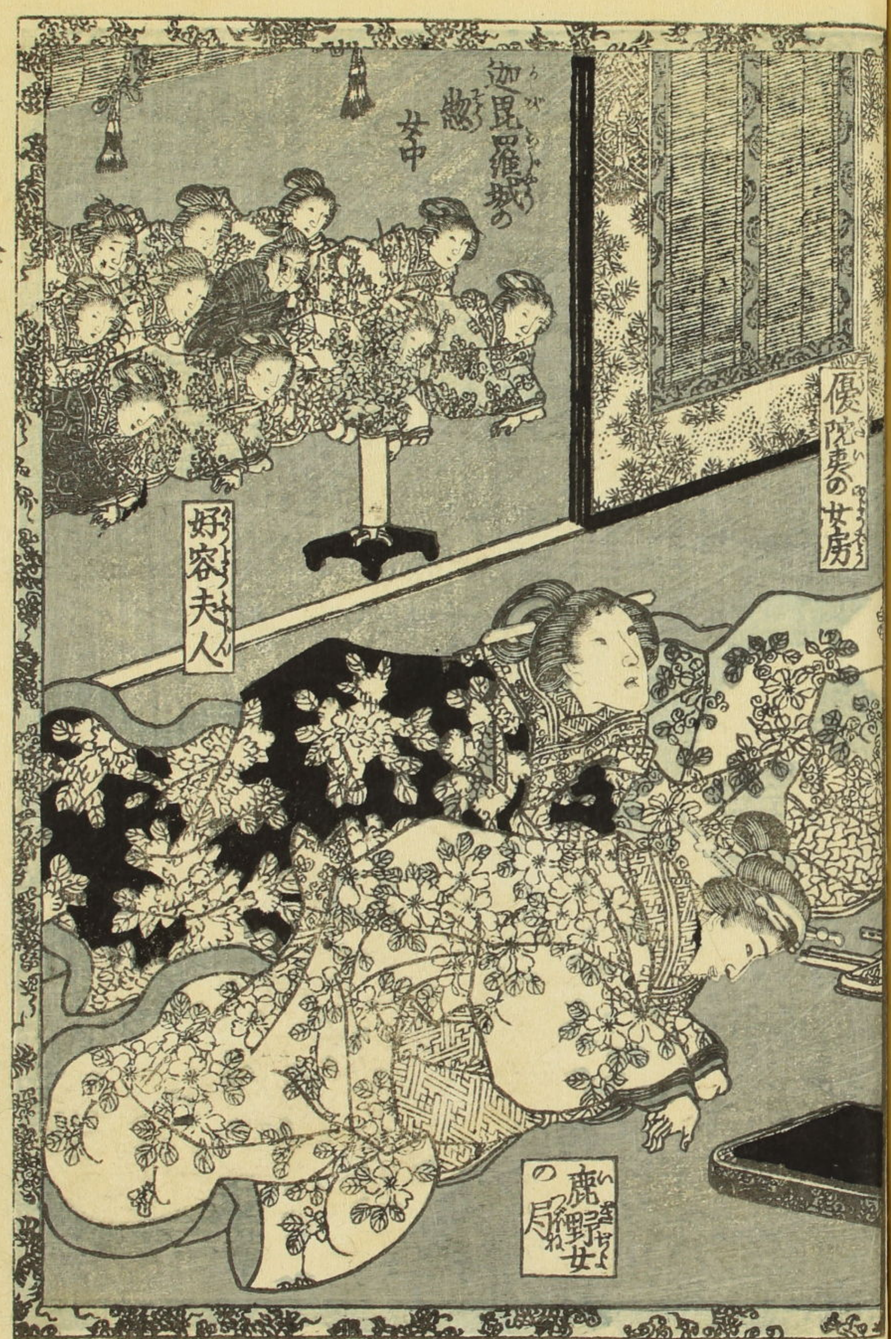
安政六巳未年
孟陬吉旦發行

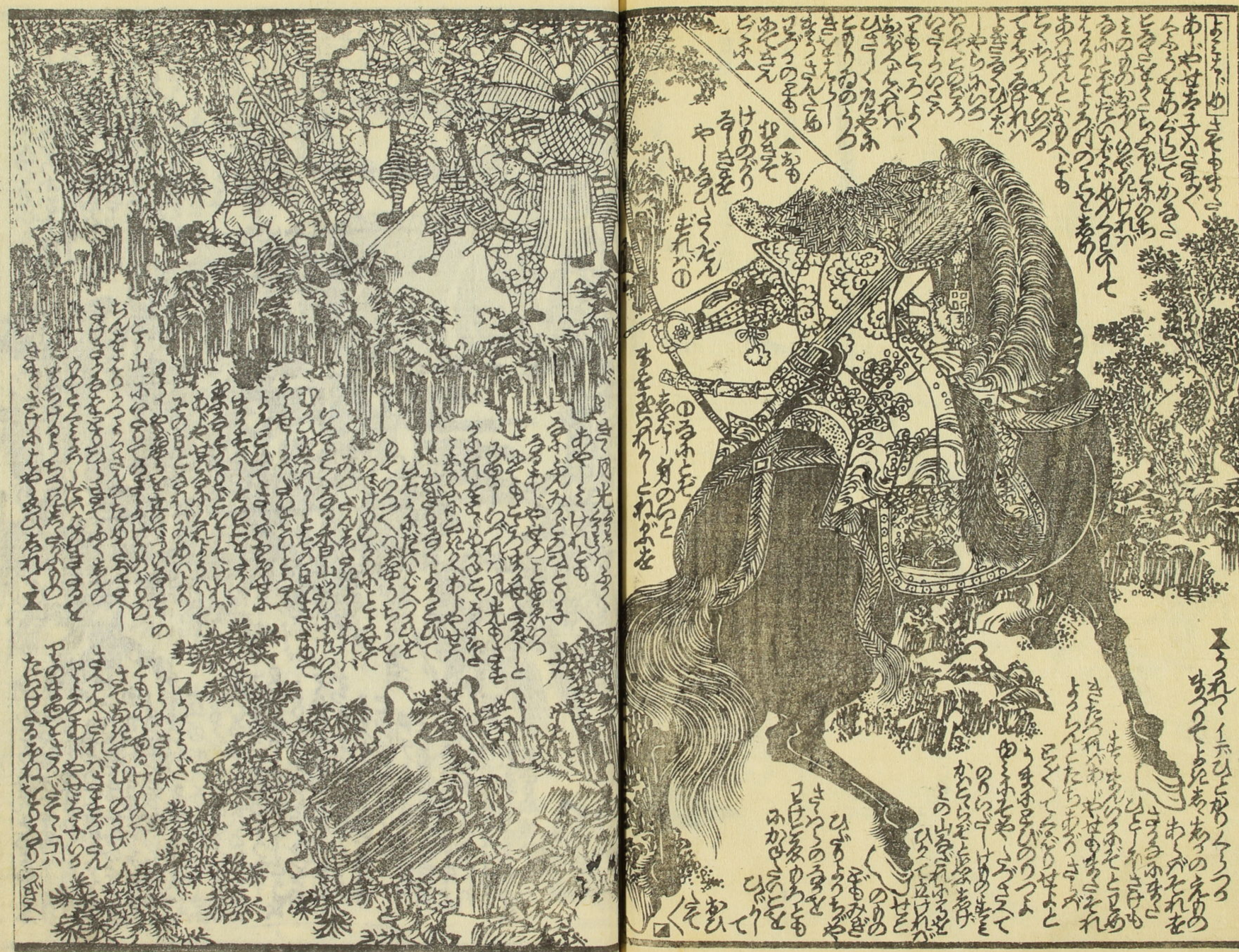
万亭應賀誌

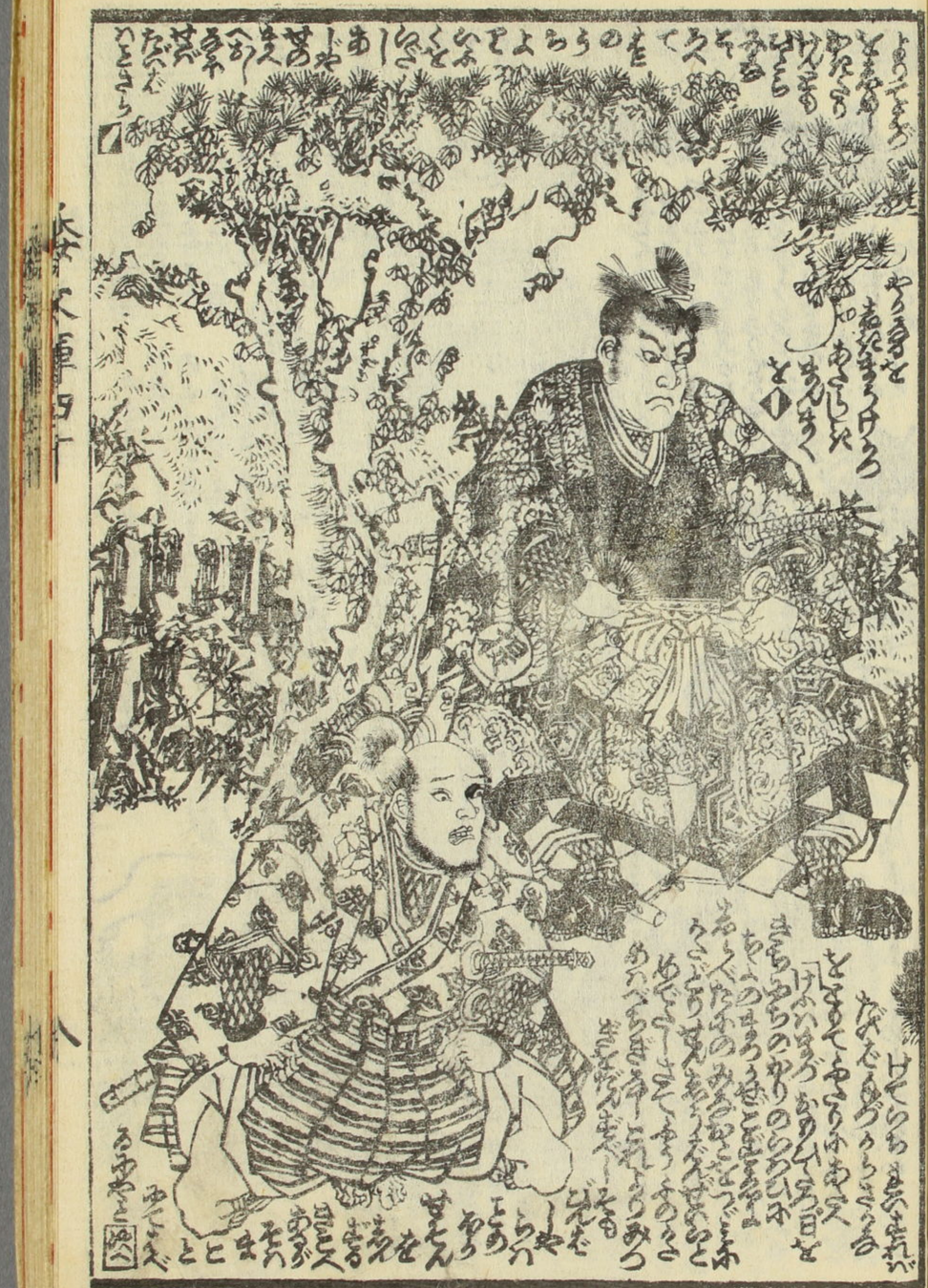
天女実は法性妙顕

提婆達多
阿闍世大子
提婆達多伊奈利国香山の峯おろそ偽の天女をもそ阿闍世大子に媒妙を

世尊
迦毘羅城の上臈衆
世尊ふ法衣と南ぞ
舎利弗尊者


迦毘羅城の女中
優陀夷の女房
好容夫人
鹿野女の月細





提

安政五年戊午春新板目録

倭文庫　三十八編　三十九編　万亭應賀作
四十編　四十一編　一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋　七編　八編　為永春水作　同画

昔語小栗實説　二編　三編　松亭金水作　同画

花山吹百人女郎　初編　二編　柳亭種彦作　同画

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續

常磐津懐中本　初編　三編　二編　四編

繪艸紙本類　人形町　上州屋重藏

歌川國貞画

万亭應賀作

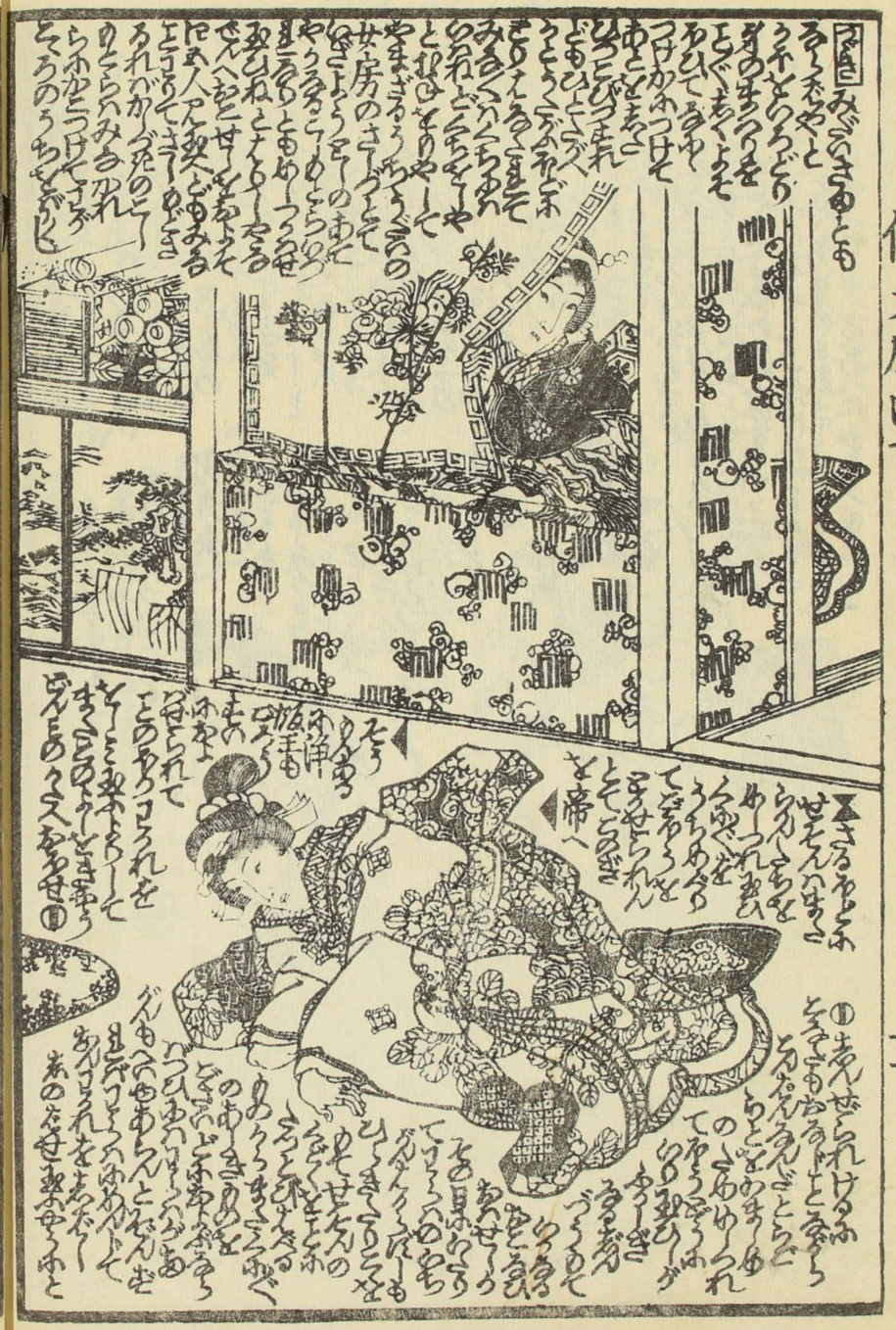
上州屋板

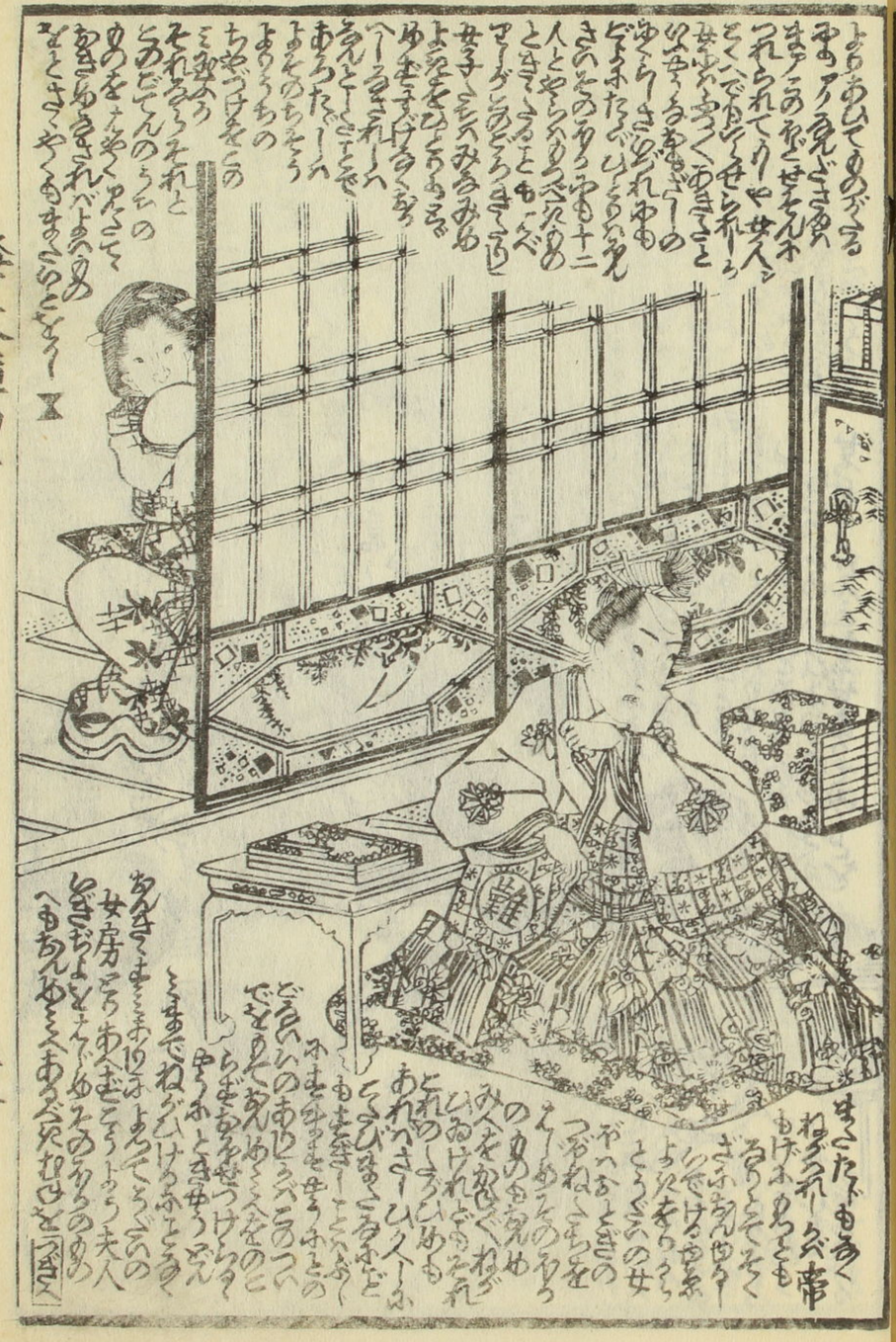
下

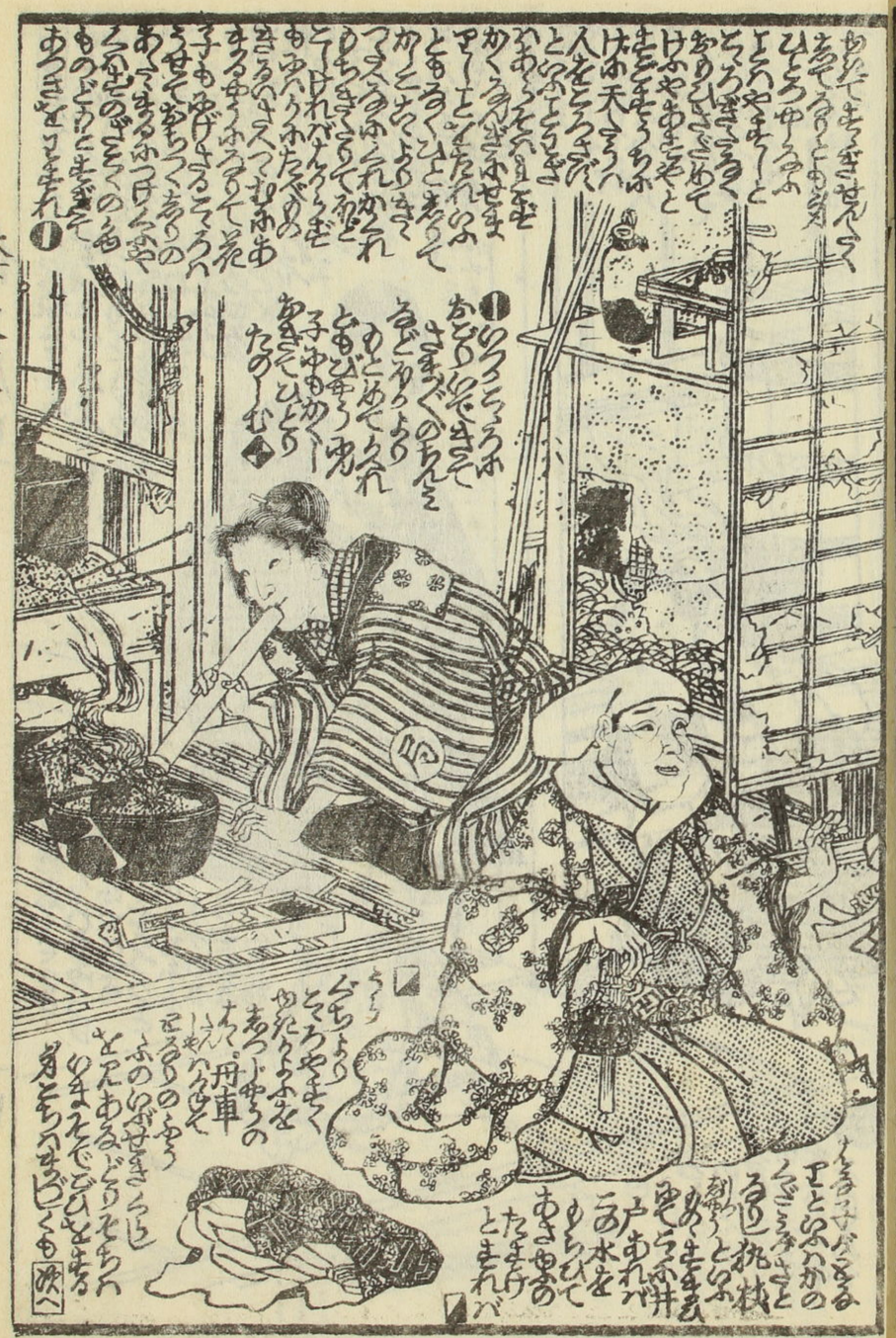
傳文庫四拾編巻之下

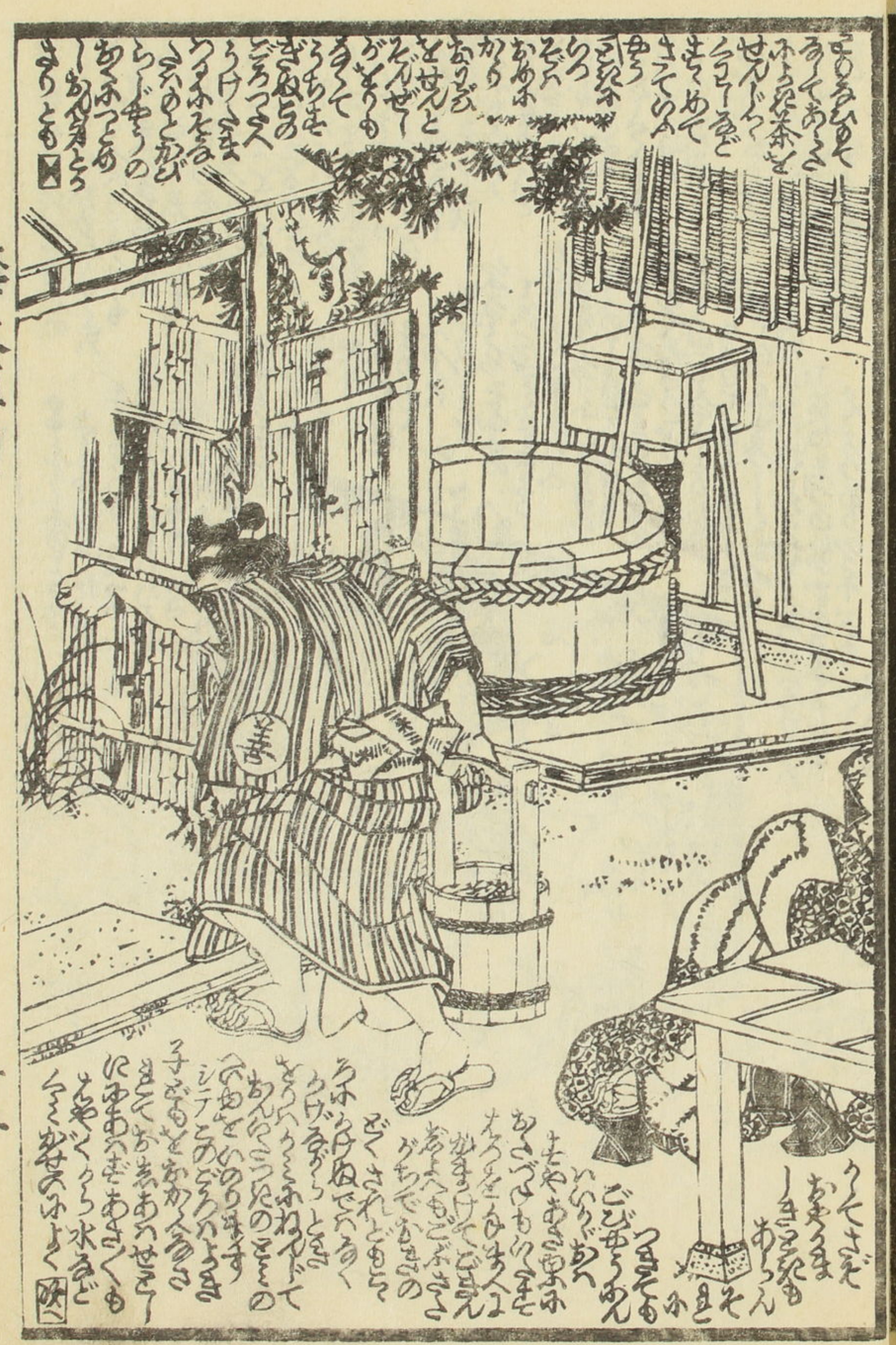
應賀作　鈔重堂

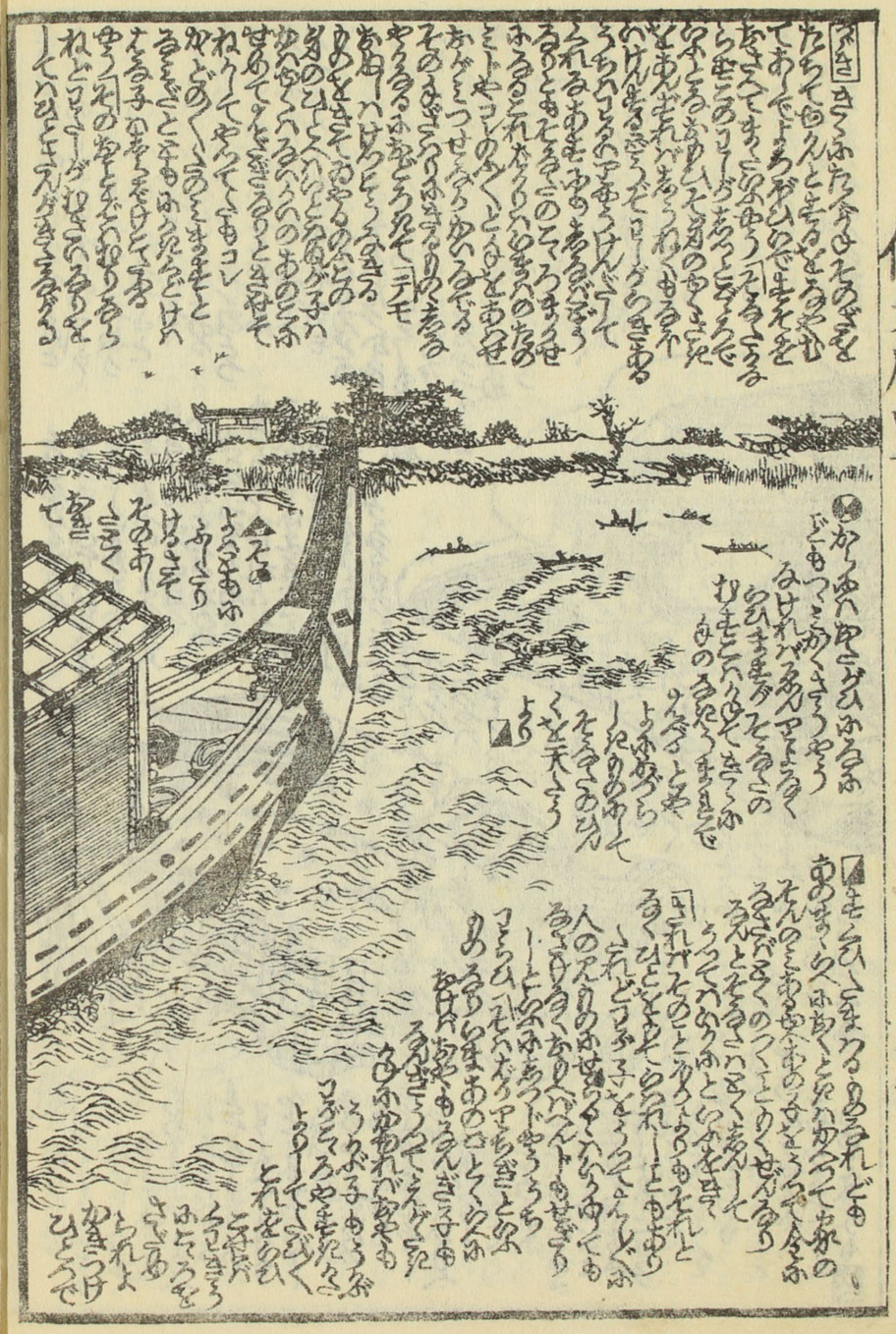
國貞画　上梓











倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

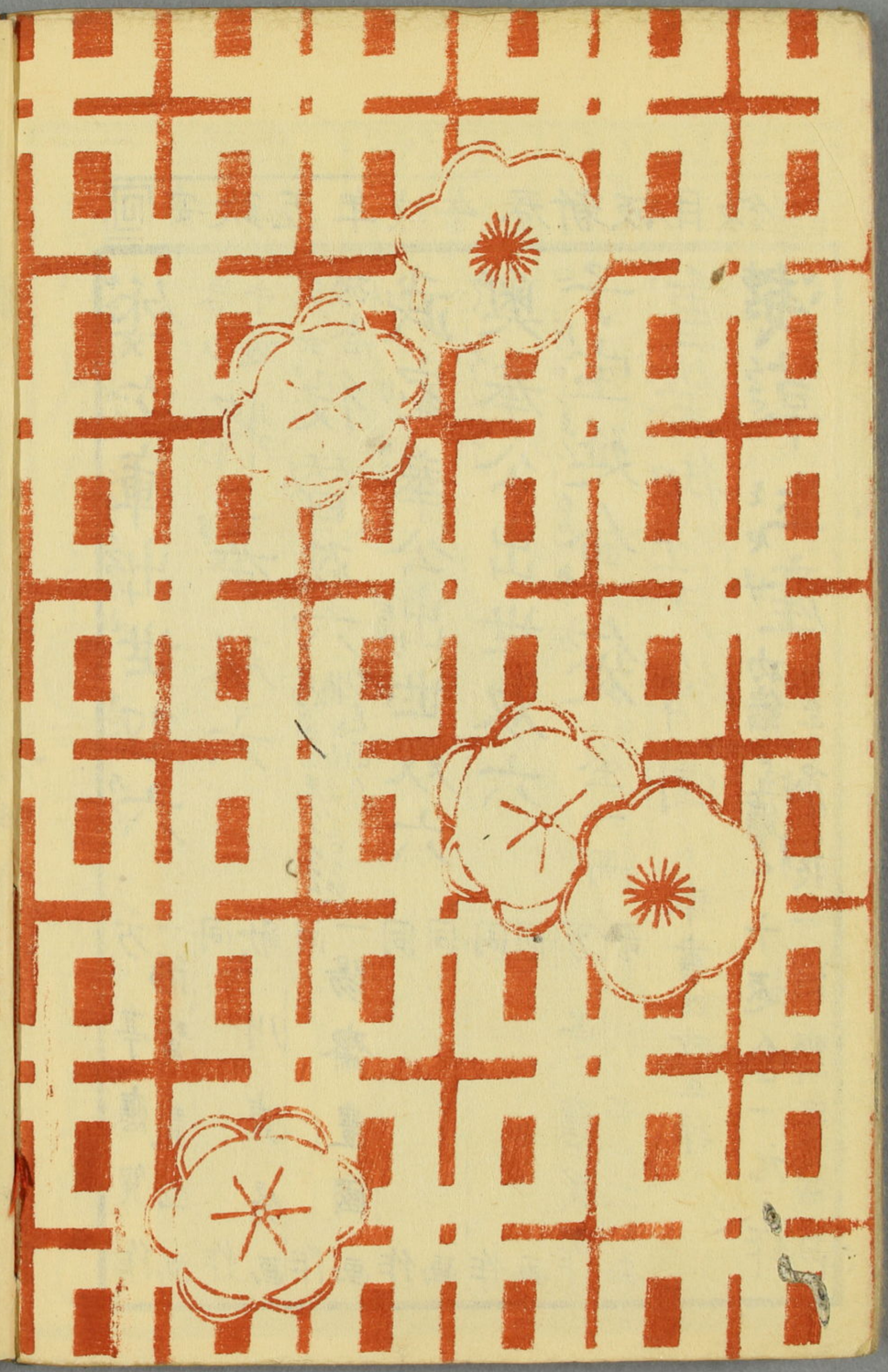
春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　来年の恵んえん　同　一陽齋豊國画

武家奉公出世双六　同　同

奥奉公出世双六　同　同

子宝延命袋　全一冊　万亭應賀作　歌川芳玉画

重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續

浅草土産　九編を五編と　十返舎一九作　来年の春　一陽齋豊國画